

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



**2019年度 年主題「ことばに満たされて～ひびきあう」**

**1・2歳児 4月主題「ありのまま」**

**月のねがい**

- ◎保育者を通して祈ることを知る
- ◎ありのままを受け止めてもらって、安心する
- ◎新しく出会った人や環境に親しみを感じ、つながっていく

**3・4・5歳児 3月主題「期待する」**

**月のねがい**

- ◎さんびか、祈り、聖書のみことばを聞く事を通して神様に会う
- ◎保育者や友だち、また春の自然とふれあうことを心地よく感じ、安心して過ごす
- ◎保育者と保護者とともに1人1人の子どものありのままの姿を受け止める
- ◎保育者は子どもの表情や仕草、呟きなどから、思いをくみ取る

**今月の聖句 「わたしは よみがえりです。いのちです。」 ヨハネ 11:25**

年度が改まり、新年度に入ります。新入、進級の園児のみなさんが健康のうちに、多様な経験を積まれることをお祈ります。

4月21日はイースターと言って、復活祭の月でもあります。まだ一般化していませんが、人間の死の問題を解決し、平安な日々を送るための心の準備の日です。一人の例外もなく万人死に向かって旅するものでありますが、復活があることを信じて希望を持つことができます。

さて、年度の初めです。種子島シオン学園のこども園の園章について説明します。A(αアルファ)とΩ(オメガ)が組み合わされた構図です。「αでありΩである」神様(黙示録21章)が、こども園の園児を東西南北・前後左右、上下左右から取り巻いて守ってくださっている構図です。神は前から導き、後ろから後押し、右からちょっぴり試練を与え、左から試練に勝たせてくださいます。平面的守りではなく、立体的かつ教育的配慮をもって園児や家庭を導いてくださいます。世界と人間を創造なされた神様は、常に傍にいて見守ってくださるインマヌエル(共にいる)なる方です。したがって、園章は神様が園児を東西南北すべての方向から見守り支えておられるという意味です。 牧師・前理事長 池田公榮



**4月の行事予定**

6日(土)	始園式(1号午前保育)
"	入園式・新年度クラス会
8日(月)~	1号新入園児慣らし保育
9日(火)	田植え(5歳児)
24日(水)	弁当日
26日(金)	交通安全教室
27日(土)	誕生会(0・1才児 4・5月生)

**5月の行事予定**

7~17日	家庭訪問(3才以上)
9日(木)	弁当日
10日(金)	誕生会(2才以上 4・5月生)
18日(土)	親子遠足・父母会総会

**あそびの中のたからもの**

入園・進級おめでとうございます。新元号も「令和」と発表され、また新たな時代がはじまろうとしています。

阿部総理は、「一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を咲かせることができるような日本でありたい。」との願いが元号に込められていると言われていました。その願いを大切にしていきたいですね。

子どもたちの園生活もまた一巡りして、新しい友だちも迎える中、今年度の遊びが始まりました。

思えば昨年春、子どもたちと庭で見つけた蝶の幼虫に心はずませ、観察したのを思い出します。さなぎから羽をのばし、時間をかけて飛び出す瞬間をわくわくしながら見ていたのが、つい昨日のこのようです。新しい仲間との世界が始まり、日々の園庭や公園でのあそびが広がっていくことでしょう。



入園・進級して不安を覚えながら過ごす子どもたち。いろいろな虫や花、風や友だちが、「おもしろそうだな!」「遊びたいな!」という興味や関心を湧き起こしてくれることと思います。

保護者の方におかれましても、入園・進級の喜びとともに不安もられることとは思いますが、お子さんの生来の生きる力を信じて、どうぞ見守ってくださいますようお願いいたします。

園には、春を待っている生き物がもう一つあります。虫かごに眠っているカマキリの卵です。昨年秋に見つけたものです。カマキリの赤ちゃんの誕生を子どもたちと楽しもうと思っています。その時が来たら、また報告させていただきます。今年も子どもたちといっぱい経験を重ね、心をわくわくさせて楽しめるよう願っています。 園長

**子どもと一緒に遊ぼう!**

**第1弾 積み木遊び**

春爛漫♪いよいよ新学期の始まりですね。進級するお子さんたち、そして各クラスに新たに入園してくるお子さんたち、おめでとうございます。世界で唯一の存在として生まれてきてくれた子どもたちに、そしてその命をここまで支えてきてくださったご家族の方々の献身に、心から感謝申し上げます。お子さんたちのこれからの成長とご家族の絆を深めていくための「楽しい遊び」について、シリーズでご紹介していきます。

最初のお勧めは積み木遊びです。生後6ヶ月頃から幼稚園卒園まで楽しむことができます。生後6ヶ月頃には両手に持てるようになり、9ヶ月頃には両手でカチカチと打ち合わせて遊びます。1歳頃になると2個を積み上げ、1歳6ヶ月を過ぎる頃には指先や腕の力の調整力がついてきて5個を積めるようになっていきます。ここまでの工程も様々で、容器に出し入れて遊んだり、投げて遊んだり工夫して楽しむ姿に成長を感じることもとても多いです。そこにお父さんお母さんが加わって一緒に遊ぶことでどんどん遊びが広がっていきます。



気持ちをコントロールする力を身につけていくと同時に、高い低い、長い短い、多い少ない等の物理的な概念も学習していきます。そうして大好きな動物や乗り物、建物や家も作りながら、想像力、表現力、美的感覚等も培われていきます。



小学生になってもあそべる積み木はとて奥が深く、スケールの大きい作品に仕上げるためには家族や友達と協力し合う大切さも成長とともに学習していきます。積み木遊びを楽しみながら、楽しくたくましく生きていく力を身につけられるので、ぜひご家族みんなで一緒に遊びましょう



花冷えの後は、春めいた日差しが白や赤に咲き誇るツツジに降り注いでいます。心地よい風に吹かれて、木々の緑や遊具が愛らしい子どもたちが来るのを楽しみにしているようです。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて続くご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、祈りを重ねていきたいと思います。

本園は幼児教育・保育の道標として、「キリスト教保育」を柱としております。本年度の年間主題として、「ことばに満たされてくひびきあう」が示されました。ここで言う「ことば」とは、単に音声だけではなく、気持ち・表情・まなざし・トーンやリズムそして互いの関係性……などが含まれています。聖書に「人はパンだけで生きるものではない」とあります。ありのままを愛されているという平安のあることが与えられなければ、子どもたちは健やかに育つことができないでしょう。スマホに目を向けながらの会話ではなく、「目と目を合わせ」「ほほえみを返す」ことから健全な人格形成が始まるのではないのでしょうか。

本学園の建学の精神である「敬神愛人」「探求・感謝」には、人間形成の基礎を培うべく心を育てたいという願いが込められています。遠い将来の準備ではなく、幼いときにこそ経験しなければならぬものがあるのではないのでしょうか。子どもたちが自分で発見するモノや動植物たち。考えながら創り出していく遊びの数々。不思議だなど感じることも。明日もまたやりたいという意欲や探究心を何よりも私たちが守らなければなりません。そのために、保護者の皆さんにも、多くの場面で楽しんで関わっていただきたいと願っています。子どもの育ちには、「タイケン・タンケン・タイケン」が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう体験。未知の世界・興味・関心を寄せる探検。そして、少し大変なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズとともに育つてまいりましょう。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だじょうぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にありますが、神さまが与えて下さるこの環境の中で、愛のことばに満たされて喜べる生活を共に目指して参りたいと思います。子どもたちがあがままの「自分」をしっかり生きていきたくて祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添っていきたくて考えております。

平成から令和に変わりゆく中、六十二年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参りますので、ご支援の程を宜しくお願いいたします。

学園長